

< その他、取組に特徴のある事例 >

畦畔管理の省力化から美しい集落づくり

1. 集落協定の概要

市町村・協定名	島根県安来市道城山根 ^{やすぎしどうじょうやまね}			
協定面積 11.7ha	田(99%)	畑(1%)	草地	採草放牧地
	水稲	野菜		
交付金額 196万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	農地、道・水路管理に要する経費		17%
		多面的機能増進活動		25%
		その他		8%
協定参加者	農業者 13人			

2. 取組に至る経緯

当集落は、協定参加メンバーのほとんどが50歳以上の兼業農家で占められ、若い後継者もそのほとんどが集落外へ転出、転居している。将来集落に戻り営農する保証もなく、10年後・15年後の集落そのものの存続が危ぶまれている。

そのような状況の中、中山間地域等直接支払制度に取り組み、農用地の保全・管理活動を行ってきたが、中山間地域特有の広大な畦畔管理（とりわけ除草対策）に多くの労力を費やさなければならず、高齢化が進む中、その省力化が急務となっていた。

そこで当集落では、近年普及しつつあるセンチピードグラスによる畦畔の芝生化を新対策協定の活動に明記し、芝生化による除草作業の省力化を目指すこととした。

3. 取組の内容

平成18年度より交付金を活用して畦畔の芝生化を開始し、県の普及員の指導を仰ぎながら取組を行った。

開始当初は育苗作業が上手くいかなかったが、翌年より近隣の先進地である全農岡山より苗を購入することによってその手間が省かれ、取組も軌道に乗った。

年次計画でエリアを設定し、毎年20aずつ芝生化の面積を増やしており、今後も順次面積を拡大する予定である。



定植作業（除草後、一定間隔に苗を植える）

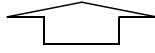


定植後の畦畔の様子

[集落の将来像]

集落そのものの維持存続が危ぶまれる中、現在の自然環境に恵まれた美しい集落を後世に残す為、農用地を適正に保全・管理する。

また、いつまでも生き生きと暮らせる集落を再構築し、後に続いてくれる若者達への農業に対する負担を軽減し、積極的に参加できるよう体制を整備する。

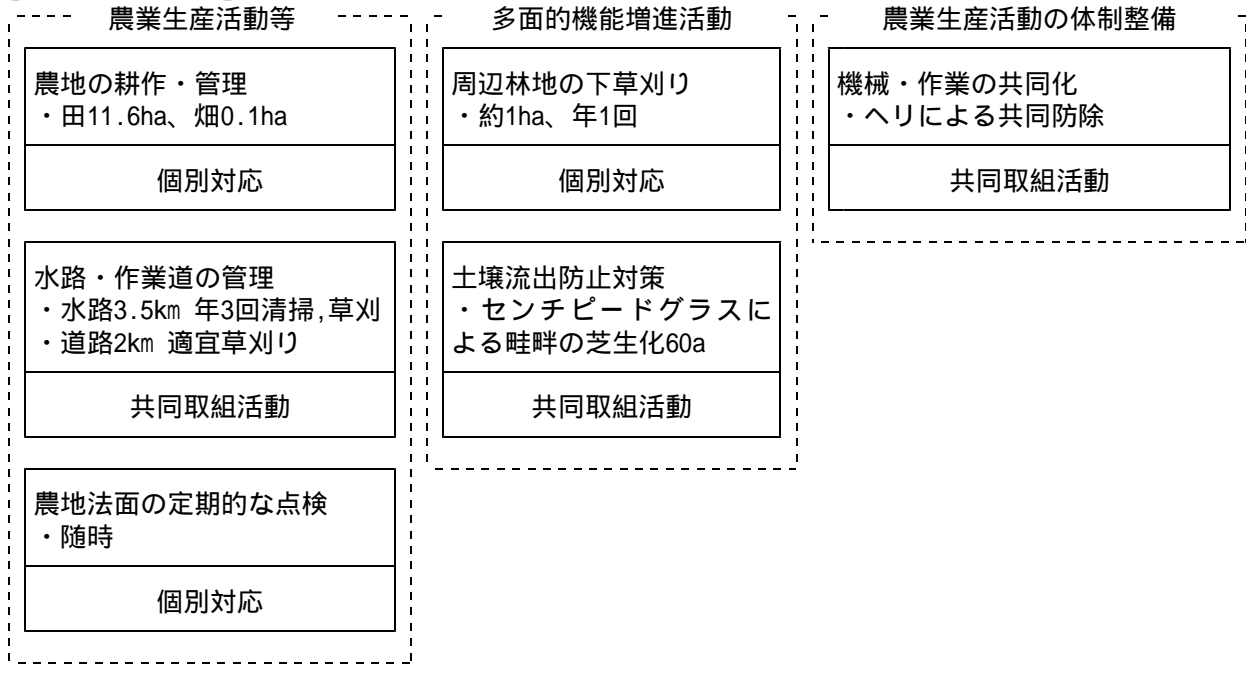


[将来像を実現するための活動目標]

農用地の適切な保全管理

畦畔の芝生化による管理作業の省力化

[活 動 内 容]



4 . 取組による変化と今後の課題等

取組開始より3年間で60aの芝生化を行った。芝生化の行われた畦畔では、未実施の畦畔に比べ明らかに除草作業が簡略化され、省力化が達成された。芝生化に対する協定者の意欲も年々高まっていることから、集落では協定農用地内の芝生化率のさらなる向上を目指している。今後の課題としては、

集落での育苗技術が確立しておらず、苗を外部から購入するため、コスト面の課題が大きい。継続的な取組とするためにも再度育苗への挑戦が必要。

既存畦畔に生息する雑草の事前処理技術も短期間での全面繁茂に直結した課題であり、対策を急ぐことが必要。

畦畔の向きによって日照条件が異なり生育にも大きな影響があるため、現在取り組んでいるセンチピードグラスだけでなく他品種の検討も必要。

今後は、畦畔の芝生化ノウハウを、集落内に留まらず近隣地域全体の活動に寄与させることも視野に入れつつ取組を進めていきたい。

[平成20年度までの主な成果]

共同作業への意識向上 (制度取組後は全農家での参加が実現)

集落景観美化への意識向上 (営農だけでなく畦畔や道・水路管理が徹底され、美しい集落景観に対する意識が向上した。(協定には位置づけていない景観作物の自発的作付等))